



図1 研究プロジェクト活動記録



「のこりもの」について考えるための準備室



人類学研究室

担当：坂井信三 木田歩 山崎剛
作品タイトル：『ただの石のための机』



媒体学研究室

担当：山田亘
作品タイトル：『日本紙媒体学会』『言素表のある媒体学教室』



感覚採寸学研究室

担当：池側隆之
作品タイトル：『美術・丹羽康博〜つくること、しることのハザマ』
『アートアニメーション・定性データ〜手応えの探求』
『建築・スタディ』『日常・エスノグラフィ〜状況 / 創意の記述』



認識外認識学研究室

担当：西塚あゆみ
作品タイトル：『認識外認識』



現前学研究室

担当：河村るみ
作品タイトル：『reappearance - 再現 - 』

図3 展示室記録



図 4 展覧会記録

■南山大学人類学研究所

研究プロジェクト『「作ること」と「知ること」：世界をつかまえる新しい方法』
(2011年度-2012年度)

メンバー

後藤明 (南山大学人類学研究所長 / 考古学)
山崎剛 (南山大学人類学研究所非常勤研究員 / 人類学)
木田歩 (南山大学人類学研究所非常勤研究員 / 人類学)
西塚あゆみ (可児ガラス工房 / ガラス工芸作家)
河村るみ (美術作家)
水野歩美 (料理専門家)
池側隆之 (名古屋大学大学院国際言語文化研究科准教授 / 映像デザイン)
山田亘 (写真家・メディア表現)
坂井信三 (南山大学人文学部教授 / 社会人類学)

* 本研究プロジェクトは、共同研究「モノ、コト、時間の人類学：物質文化の動態的研究」(2010年度-2012年度)のサブプロジェクトとして実施された。

* 本研究プロジェクトに対し、公益財団法人愛銀教育文化財団の「平成24年度 教育・文化活動に対する助成」の支援を受けた。

■名古屋市文化基金事業 ファン・デ・ナゴヤ美術展 2013

「のこりもの ―世界の性質：残ることについての研究―」

2013年1月9日 [水] -1月20日 [日] 名古屋市民ギャラリー矢田 (第2-第7展示室)

主催：ファン・デ・ナゴヤ美術展 2013 実行委員会 / 公益財団法人名古屋市文化振興事業団

企画：山崎剛

後援：南山大学

協力：日本紙媒体学会

関連プログラム

トークイベント1 「残ることの世界で、生きること」

2013年1月13日 [日]

出演：柳澤田実 (哲学・キリスト教思想 / 南山大学)

青山美紀 (愛知県ボート協会理事・愛知県立旭丘高等学校漕艇部コーチ)

池側隆之 (映像デザイン / 名古屋大学大学院)

トークイベント2 「遺された世界に、生きること」

2013年1月19日 [土]

出演：沖啓介 (メディアアーティスト / 東京造形大学)

坂井信三 (社会人類学 / 南山大学)

山田亘 (写真家 / 日本紙媒体学会理事)